遠距離送水計画策定の留意事項

遠距離送水計画策定の留意事項

輪島市大規模火災を踏まえた検討会報告書(抜粋)

- 地震や津波発生時の大規模火災現場では、有限水利である防火水槽に部署し長時間活動することは困難であることや、防火水槽の破損による使用不能等が発生するおそれがあることから、継続的に放水量を確保するため、津波浸水想定区域外にある河川等の自然水利を活用し、大容量かつ遠距離の揚水、送水が可能な海水利用型消防水利システム等の車両の整備のほか、**地域の実情に応じ、河川等の水利指定や部署位置、必要な車両台数等について定めた遠距離送水計画の策定**を推進することが必要である。
- 消防庁は、各消防本部において策定すべき遠距離送水計画について、全国の消防本部の事例を踏まえつつ、**計画に盛り込むべき事項等を示す**など、策定を促していくことが必要である。

計画に盛り込むべき事項

木造密集地域、危険物施設など火災が発生した場合、消防活動が困難となる地域については遠距離送水計画を策定し、次の事項について地域の実情に応じて計画を定める必要がある。

- ・災害時にも活用可能な、耐震性貯水槽の整備を推進する。特に、津波浸水想定区域内における火災で使用することを想定し、津波浸水想定区域外への、大容量の耐震性貯水槽の整備や、耐震性貯水槽の分散・追加配置などの対策を進めること
- ・消火栓が接続されている水道管や防火水槽の耐震化状況、地震による地盤の隆起や津波による引き潮、地域の状況に応じた河川等の無限水利による防火水槽への補水の必要性などを考慮し、地震や津波災害時にも活用可能な消火栓、耐震性貯水槽、河川、プールなどを活用して消火活動を実施すること
- ・消防車両や可搬型消防ポンプなどで、中継するホースの最大本数(距離)を設定すること
- ・管轄する地域の河川等の無限水利から防火水槽等までの送水に係るホースの延長経路・本数(距離)・規格を指定すること
- ・防火水槽等を活用した中継地点や消防車両の台数などを指定すること
- ・海水利用型消防水利システム等の大容量の揚水かつ遠距離の送水が可能な消防車両を活用すること
- ・大規模災害時は、断水などにより消火栓等の水利が使用不能になるおそれがあり、平時よりも長距離の送水を行う可能性があることから、各車両に積載するホースの増強すること
- ・消防本部で保有する車両数を超えて中継する必要がある場合など、応援部隊の車両の活用について加味すること